

## Bevalco Report Vol.17

2007 / 1 / 31

### 2006年新規株式公開市場の分析(2)

2006年度(2006年1月 - 12月)に新規公開した会社は188社であったが、初値の騰落率(発行価格に対する初値の割合)では、全体で平均77%の騰貴となった。発行価格に対して初値が騰貴した企業は159社、発行価額と初値が同額であった会社が9社、発行価格に対して初値が下落した企業は20社だった。個別の銘柄では、ジェイテックが773%、eBASEが543%、比較.comが500%の騰貴となった。また、KFE JAPANが42%、メンバーズが40%、神戸物産20%の下落であった。個々に騰落の理由はあると考えられるものの、2006年度の日経平均の最高値が4月7日の17,563円であったことから、4月7日付近で上場された株式は発行価格に対して大幅に騰貴しており、対照的に後半に上場した企業は初値が発行価格よりも下落している傾向にある。

【表1 騰落率上位10社】

コード	会社名	上場日	市場	発行価格	初値	騰落率
2479	ジェイテック	4月4日	HC	110,000	960,000	773%
3835	eBASE	12月26日	HC	185,000	1,190,000	543%
2477	比較.com	3月15日	東M	450,000	2,700,000	500%
3801	アスキーソリューションズ	4月6日	HC	350,000	1,880,000	437%
2475	WDB	3月16日	JQ	330,000	1,750,000	430%
3030	ハブ	4月3日	HC	140,000	700,000	400%
3793	ドリコム	2月9日	東M	760,000	3,470,000	357%
8783	グラウンド・フィナンシャル・アドバイザー	2月10日	JQ	280,000	1,210,000	332%
3802	エコミック	4月4日	札A	120,000	510,000	325%
3031	ラクーン	4月6日	東M	800,000	3,360,000	320%

( )発行価格、初値とも円単位

本レポートに掲載されております情報は、内容及び正確さに細心の注意を払ひ、万全を期しておりますが、人為的なミスや機械的なミス、調査過程におけるミスなどで誤りがある可能性があります。ビバルコ・ジャパン株式会社では、当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負うものではありません。

本レポートおよび当社が提供するすべての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。

Copyright (C) Bevalco Japan. All Rights Reserved.

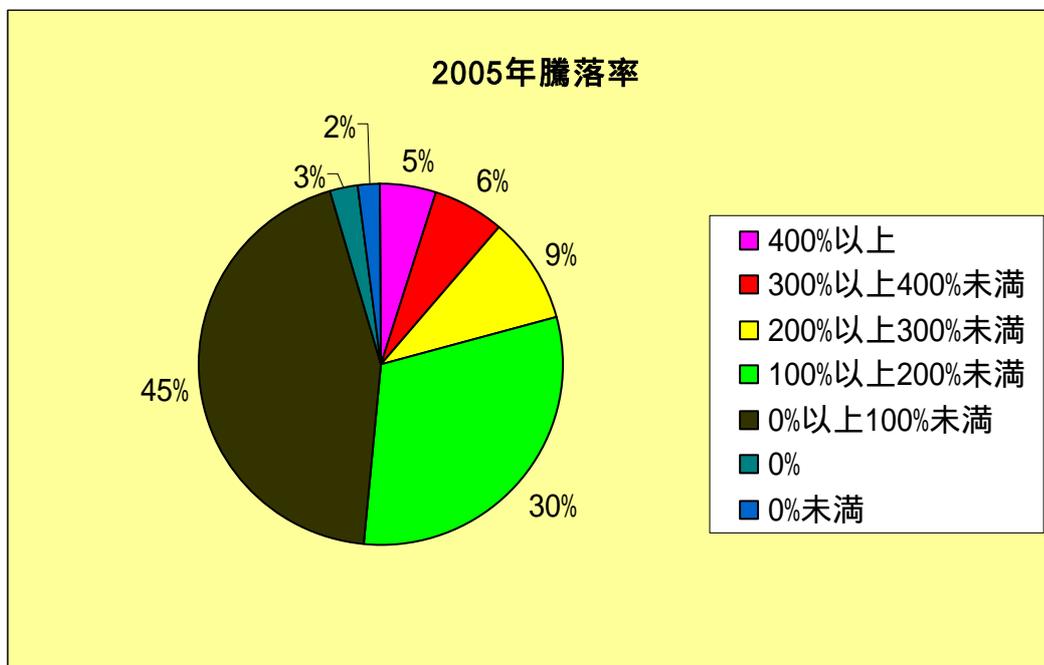
【表2 騰落率下位10社】

コード	会社名	上場日	市場	発行価格	初値	騰落率
3061	KFE JAPAN	11月20日	名C	190,000	111,000	42%
2130	メンバーズ	11月2日	名C	290,000	175,000	40%
3038	神戸物産	6月8日	大2	5,050	4,050	20%
7824	オプトロム	10月26日	名C	150	125	17%
8304	あおぞら銀行	11月14日	東1	570	495	13%
6162	ミヤノ	9月22日	東2	425	370	13%
3821	フラクタリスト	10月11日	名C	400,000	350,000	13%
3059	ヒラキ	11月14日	東2	1,870	1,720	8%
3812	ゲームオン	12月8日	東M	500,000	460,000	8%
2133	GABA	12月1日	東M	265,000	249,000	6%

( )発行価格、初値とも円単位

市場全体の騰落率を分析した場合には、2005年に比べ、2006年は全体に占める200%以上の騰貴率の会社割合が20%から10%に減少し、初値が発行価格に対して下落してしまった企業の割合が2%から11%と増加している。

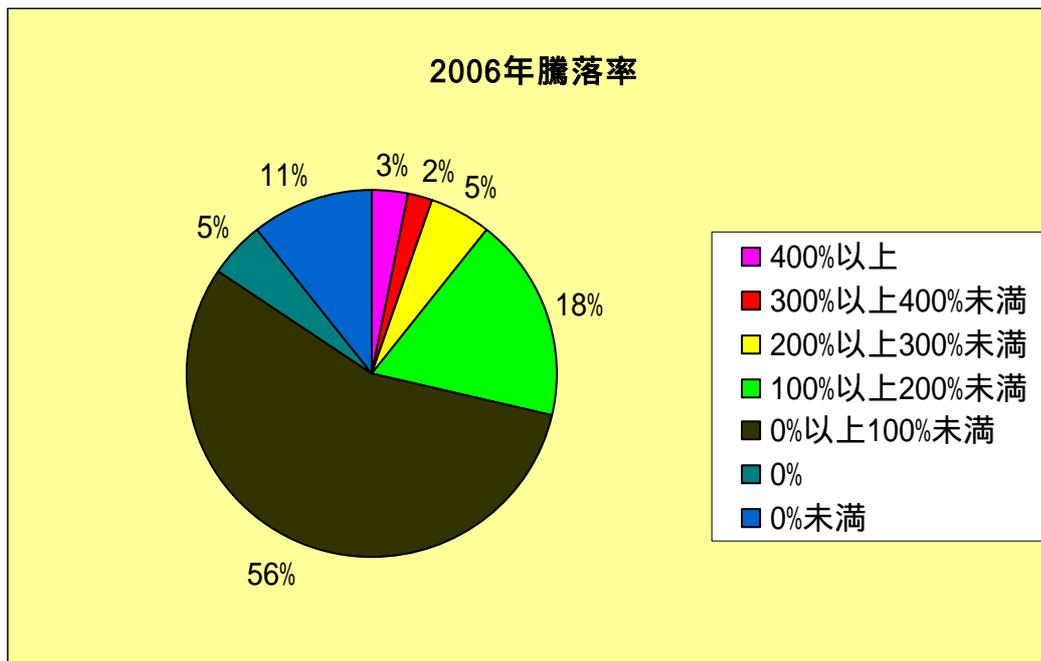
【表3 2005年全社騰落率】



本レポートに掲載されております情報は、内容及び正確さに細心の注意を払ひ、万全を期しておりますが、人為的なミスや機械的なミス、調査過程におけるミスなどで誤りがある可能性があります。ビバルコ・ジャパン株式会社では、当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負うものではありません。

本レポートおよび当社が提供するすべての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。

【表4 2006年全社騰落率】



市場ごとに初値騰落状況、騰落率の平均値を検討した場合、初値が下落している会社は各市場に分散しており、必ずしも新興市場に上場した会社の初値が下落している訳ではないということが分かる。騰落はどの市場に上場したかよりも、いつ上場したかによる影響が大きいと考えられる。騰落率の平均値から分析した場合には、東証マザーズが104%、ヘラクレスが148%、札幌アンビシャスが149%となっており、新興市場が東証1部、2部よりも高い騰落率となっている。

【表5 市場別騰落率】

市場	騰貴会社数	同額会社数	下落会社数	騰落率平均
東証1部	10	1	3	10%
東証2部	7	4	5	8%
東証マザーズ	38	0	3	104%
ジャスダック	49	4	2	61%
大証2部	1	0	2	3%
ヘラクレス	37	0	0	148%
名証2部	1	0	0	6%
名証セントレックス	8	0	5	17%
福岡Qボード	4	0	0	81%
札幌アンビシャス	4	0	0	149%
合計	159	9	20	77%

本レポートに掲載されております情報は、内容及び正確さに細心の注意を払い、万全を期しておりますが、人為的なミスや機械的なミス、調査過程におけるミスなどで誤りがある可能性があります。ビバルコ・ジャパン株式会社では、当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負うものではありません。

本レポートおよび当社が提供するすべての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。

証券会社の観点から2006年の新規公開を分析した場合、主幹事数では大和証券 SMBC が43社、野村證券が34社、日興コーディアル証券が22社となっており、大手証券会社が主幹事となることが多いことが分かる。先日、みずほ証券と新光証券の2008年1月1日での合併が発表となったが、みずほインベスターズ証券まで含めたみずほグループとしては、41社の主幹事となっており、首位の大和証券 SMBC とほぼ同じ主幹事数となっている。

マネックス証券は、主幹事数は3社と少ないものの、100社の新規公開に関与しており、新規公開会社の半数以上について、株式を引受けている。ネット証券会社は、主幹事数は少ないものの、近年、個人投資家が多数増加しており、販売力は高いことから、株式を引受ける会社数が多くなっているものと考えられる。

【表6 証券会社別主幹事数、関与会社数】

証券会社	主幹事数	関与会社数
大和証券 SMBC	43	94
野村證券	34	93
みずほ・新光証券	24	143
日興コーディアル証券	22	102
みずほインベスターズ証券	17	69
三菱UFJ証券	15	127
マネックス証券	3	100
岡三証券	0	70
その他	30	689
合計	188	1,487

( ) 1株でも引受けている場合には、関与会社に含まれている。

( ) みずほ・新光証券会社が同一の会社について引受を実施している場合には、それぞれカウントしている。

証券会社別の引受総額は、やはり大和証券 SMBC が最も多額で3759億円、次いで野村證券の2638億円、日興コーディアル証券の2116億円となっている。引受総額で大手証券会社が上位となっている理由はやはり各案件において引受株数が多くなる主幹事を数多くつとめていることによるものである。

引受総額のランキングの中で特に目を引く点としては、ゴールドマン・サックス証券である。ゴールドマン・サックス証券の関与会社数は3社と少ないものの、引受総額は上位となっている。ゴールドマン・サックスグループで再建を行ったアコーディア・ゴルフの引受けを行っており、478億円の総額を行っていることによるものである。

本レポートに掲載されております情報は、内容及び正確さに細心の注意を払ひ、万全を期しておりますが、人為的なミスや機械的なミス、調査過程におけるミスなどで誤りがある可能性があります。ビバルコ・ジャパン株式会社では、当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負うものではありません。

本レポートおよび当社が提供するすべての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。

【表7 証券会社別引受額】

証券会社	関与会社数	引受総額	1件当たり平均引受額
大和証券 SMBC	94	375,922	3,999
野村證券	93	263,806	2,837
日興コーディアル証券	102	211,612	2,075
みずほ・新光証券	143	87,693	613
三菱UFJ証券	127	72,466	571
ゴールドマン・サックス証券	3	67,509	22,503
みずほインベスターズ証券	69	21,444	311
その他	856	125,638	147
合計	1,487	1,226,090	825

( ) 引受総額、1件当たり平均引受額は百万円単位

2006年の新規公開会社としては、あおぞら銀行、ミクシィといった銘柄が新規公開銘柄として注目を集めた。

2007年もカーライルグループがウィルコムの上場を目指しているといった話もあり、引き続き2007年の新規公開会社の経過を分析したい。

以上  
(文責 渋谷 大)

本レポートに掲載されております情報は、内容及び正確さに細心の注意を払い、万全を期しておりますが、人為的なミスや機械的なミス、調査過程におけるミスなどで誤りがある可能性があります。ビバルコ・ジャパン株式会社では、当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負うものではありません。

本レポートおよび当社が提供するすべての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。

Copyright (C) Bevalco Japan. All Rights Reserved.